

News Letter vol.15 2011.6.22

ベルギー王国ゲント大学を訪問して

派遣国名:ベルギー王国
受入機関:ゲント大学
派遣期間: 2011.3.28~2011.6.7

私は、本派遣事業の支援を受け、ゲント大学に約2ヶ月間滞在しました。派遣期間中には、フランスで開催された国際会議 GEFS2011 (5th IEEE International Workshop on Genetic and Evolutionary Fuzzy Systems) およびイタリアで開催された国際会議 ECEM2011 (7th European Conference on Ecological Modelling) に参加し、それぞれにおいて口頭発表しました。



Gent University

私の研究は、魚の生息場選好性を定量的に評価するための数理モデルの構築とその適用が中心です。今回の派遣では、人間の選好性のモデリングによく利用されている pairwise comparison に基づく手法をファジィ生息場選好性モデルの最適化に適用することが最大の目的でした。私の研究分野である Ecological Modelling では、このような手法が適用された例は皆無であり、非常に興味深いアプローチです。解析の結果は、2011年9月末に開催される国際会議 EUROFUSE2011 において発表する予定です。予想以上に進捗が良かったため、それ以外の内容にも挑戦することができました。短期間でしたが、上記の国際会議に加えて、いくつかの成果を得ることができ、大変有意義な滞在となりました。

研究以外にも、ゲント大学が新しく建設中の温室を訪問したり、ゲント大学で日本学について研究されている教授と面会したりするなど、様々な出会いがありました。今回の派遣で得た経験や研究者ネットワークを起点として、今後とも国際的な研究活動を発展させていきたいと思えます。

研究以外でも、ゲント大学が新しく建設中の温室を訪問したり、ゲント大学で日本学について研究されている教授と面会したりするなど、様々な出会いがありました。今回の派遣で得た経験や研究者ネットワークを起点として、今後とも国際的な研究活動を発展させていきたいと思えます。

ゲントは、食べ物も飲み物も非常に美味しいので、次の長期的な滞在の機会が楽しみです。

最後に、本派遣事業においてご支援いただきました先生方やスタッフの皆様にご挨拶申し上げます。

(右) ベルギー滞在中に参加した第1回巡回遊の日のイベントの様子。個体数の減少が問題となっているシラスウナギの移動について、干拓地の水門開閉調査による研究成果が公開された。右端はベルギーのウナギ料理。

